

北興化学工業とSDGs



北興化学工業は、企業理念に基づき、当社の持続的な成長だけでなく、サステナブルな社会の実現にも寄与していきたいと考えています。

北興化学工業の事業活動がSDGs達成にどのように貢献しているか、以降のページでご紹介します。



北興化学工業 企業理念

「社会貢献」「環境」「技術」を経営のキーワードとし、全ての人々の幸せのため、食糧の安定供給に寄与する安全で安心な農薬製品および産業活動を幅広く支えるファインケミカル製品を社会に提供していきます。

内容(目次)

1.	北興化学工業の製品とSDGs	・ ・ ・	P4
2.	農薬事業とSDGs	・ ・ ・	P6
3.	ファインケミカル事業とSDGs	・ ・ ・	P10
4.	製品製造とSDGs	・ ・ ・	P14
5.	主要な事業を支える活動とSDGs	・ ・ ・	P16



1. 北興化学工業の製品とSDGs



1.北興化学工業の製品とSDGs

農薬事業

当社は、農作物を病虫害や雑草から守り、農作物の安定生産を支える農薬を普及推進することで、人々の豊かで安全な食生活を支えています。また、生産者の方々は、農薬を効果的に使用することで、農作業にかかる時間や労力を大幅に軽減できるなど、農業の効率化を図ることができます。

当社は、「種子から収穫まで護るホクコー農薬」をモットーとし、世界の農家で農薬を使用していただくことにより、農業に貢献することを目指します。

農薬製品が果たす役割

農薬は、「世界の人口増加を支えるための食料増産」「農作物に発生するカビ毒の低減」「農作業の負担軽減」に寄与するなど、限りある農耕地で安定・効率的に食料を確保し、農業の省人化・省力化を進めるうえで必要不可欠な資材です。

ファインケミカル事業

当社は、化学工業製品のなかでも独自の技術に裏づけられた、より加工度が高く、付加価値の高いファインケミカル製品を製造し、樹脂、医・農薬、電子材料などの様々な分野に、その原料として製品を供給しています。

当社が供給する高機能・高純度の製品は、海を越え世界の幅広い産業活動を支え、人々の暮らしを豊かにしています。

ファインケミカル製品が果たす役割

ファインケミカル製品は、消費者の方々が直接手にとる機会のない化学製品ですが、それは形を変えて身の回りの電化製品や医薬品などの原料として使われ、知らないうちに皆さんの役に立っています。

目には見えないけれども、産業活動にはなくては困るもの、それが、ファインケミカル製品です。

SDGsとの関連



2 飢餓をゼロに



8 働きがいも
経済成長も



12 つくる責任
つかう責任



15 陸の豊かさも
守ろう



3 すべての人に
健康と福祉を



9 産業と技術革新の
基礎をつくらう



14 海の豊かさを
守ろう



17 パートナリシップで
目標を達成しよう

2.農薬事業とSDGs



2-1. 農薬事業とSDGs

農薬事業の概要

国内

- ✓ 水稻・野菜・果樹や農耕地以外の殺菌・殺虫・除草剤など、200以上の全製品をJA（農協）を通じて販売しています。
- ✓ 各都道府県に営業担当者を置いて地域に密着した活動を行い、農薬の正しい使用方法についての指導も行うなど、安全で安心な農作物の生産を支援しています。
- ✓ 営業・技術担当者は、緑の安全管理士（*1）やJGAP（*2）指導員の資格を取得し、持続可能な農業につながる情報の提供をきめ細やかにしています。

海外

- ✓ 世界では人口増加による食糧不足から農作物の安定確保が重要な課題となっており、農薬の需要は高まっています。
- ✓ 当社では、自社開発製品を、主にアジア、北米、中南米などに輸出して、病害虫や雑草から農作物を守るなど世界の農業に貢献しています。
- ✓ 2016年に米国にマーケティング子会社を設立、2019年にベトナムに試験農場を開設するなど、海外での普及体制を強化しています。

製造受託

- ✓ 殺虫剤・殺菌剤・除草剤などの製剤および包装の受託製造を行っています。
- ✓ 新たに日本において農薬登録を受ける他企業製品の製剤設計、委託生物試験用製剤、処方変更にかかわる製剤設計などのコンサルティング業務を行っており、当社の製剤技術が他の多くの農薬製品に活用できるよう、窓口を開いています。

SDGsとの関連



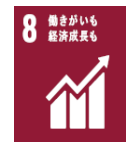
2 飢餓をゼロに(※2.1、2.3、2.4)

- ✓ 当社の農薬で農作物を病害虫や雑草から守ることで、収量・品質を確保し、世界の食糧需要に応えます。



3 すべての人に健康と福祉を(※3.d)

- ✓ 当社の農薬が強い毒性を持つカビ毒の発生を抑制し、私たちが健康被害から守ります。



8 働きがいも経済成長も(※8.2)

- ✓ 当社の農薬は、農業の効率化に貢献し、農業の成長産業化に寄与します。



12 つくる責任つかう責任(※12.4)

- ✓ 農薬は、使用者に正しく使ってもらうことで安全でより効果を発揮します。当社では、JAや農家の方々に、製品ごとの使用方法について、適切に指導を行います。



15 陸の豊かさも守ろう(※15.2、15.4、15.a)

- ✓ 農薬を使うことで農作物の収量・品質を確保していることが、森林や非農耕地を守ることに繋がっています。

2-2.「研究開発」とSDGs

— 技術を開発し続ける～Challenge to Innovation—

研究 開発

□ 農薬製品の研究開発

- 農作物を病害虫や雑草から守り、世界の食糧需要に応え、農業の効率化に貢献し、農業の成長産業化に寄与する製品・技術の開発を目指して、日々研究を行っています。

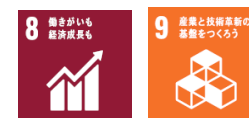
□ 安全性の追求

- 農薬は、人や動物に対してはもちろん、河川や海、また土壌などの自然環境にも、より安全なものでなければなりません。
- 安全性研究部門では、製品開発段階で安全性評価を実施し、自然・環境により負荷の少ない製品を開発すべく、研究に取り組んでいます。
- 原体創製、生物評価、製剤の各研究部門と安全性研究部門が一箇所に集約され、研究者が間近で情報共有できる体制のもと、より安全な農薬の開発を目指します。

□ 研究方法

- 研究開発は当社独自で進めるものだけではありません。新たな製品や技術を開発するにあたっては、産官学の共同開発（パートナーシップ）にも取り組んでいます。

SDGsとの関連



8働きがいも経済成長も(※8.2)
9産業と技術革新の基礎をつくろう(※9.5)



14海の豊かさを守ろう(※14.1)
15陸の豊かさを守ろう(※15.4、15.a)



17パートナーシップで目標を達成しよう(※17.17)

2-3.「製品」「技術」とSDGs

製品

イプフェンカルバゾン(自社開発 水稲用除草剤)

【特長】

・米作地帯の代表的雑草「ノビエ」の発生を長期間抑制

【普及・展開】

- ・国内では、2013年8月に農薬登録を取得しました。
- ・2014年の発売以来、多くのお客様に使用されて好評を博しています。
- ・海外では、アジアの水稲市場を中心に開拓中。韓国ではすでに販売を開始しました。



カスガマイシン(自社開発 水稲・園芸用殺菌剤)

【特長】

・稲の主要な病害「いもち病」防除のほか、野菜・果樹類の細菌性病害にも高い効果を発揮

【普及・展開】

- ・奈良市「春日大社」の土壌から発見された微生物が生産する成分を、当社が、農薬として開発しました。
- ・国内では1965年から発売、50年以上にわたって使用されています。
- ・海外では、アジアの米作地帯を中心に展開しています。
- ・2014年9月には、米国においてリンゴの火傷病防除剤としての農薬登録を取得しました。
- ・現在世界の約40か国で販売されています。



製剤技術

Dr.オリゼ処方剤 (水稲用箱処理剤)

【特長】

・水面施用剤のオリゼメートを、育苗箱施用のDr.オリゼ箱粒剤として開発 (Meiji Seika ファルマ(株)との共同開発、1997年9月登録)

・その後、殺虫剤との混合剤をDr.オリゼシリーズとしてラインナップ

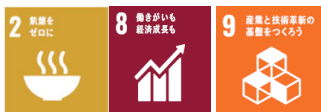
【メリット】

・田植え前に育苗箱に散布するだけで、田植え後の生育期に発生する病害虫を防除でき、作業負担を軽減できます。



育苗箱

SDGsとの関連



2 飢餓をゼロに(※2.1、2.3、2.4)

8 働きがいも経済成長も(※8.2)

9 産業と技術革新の基礎をつくろう(※9.5)

- ・当社は、病害虫や雑草から農作物を守り、世界の食糧需要に応えることができる農薬製品を開発します。
- ・当社の製剤技術により、農作業を省力化し、農業生産の効率化に貢献します。
- ・当社が開発した製品および製剤技術が農業の発展に貢献し、農業の成長産業化に寄与します。

3. ファインケミカル事業とSDGs

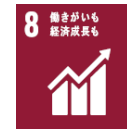


3-1.ファインケミカル事業とSDGs

ファインケミカル事業の概要

- **幅広い分野に原材料を供給**
 - ✓ 当社のファインケミカル事業は、世界の化学メーカーと取引を行うB to Bの事業を行っています。
 - ✓ 当社がつくるファインケミカル製品は、様々な分野で、取引先の企業が販売する商品の素材などで使用されており、世界の幅広い産業活動を支えています。
- **主な分野**
 - ✓ グリニャール反応を中心とする独自の製造技術を活かし、樹脂、医・農薬、電子材料などの分野で使用される、高純度・高機能・高付加価値の素材・原料を提供。産業の発展と人々の豊かな暮らしに役立っています。
- **得意技術は「グリニャール反応」**
 - ✓ 有機合成反応の一つ「グリニャール反応」は、化合物と化合物を狙い通りに結合させる“高性能の接着剤”のような存在として、多彩な用途に利用されます。
 - ✓ この反応技術により、高品質な製品を効率よく低コストで造ることができます。
 - ✓ しかしながら、反応時の発熱の制御が難しいため、大量合成を行っている企業は多くありません。
 - ✓ 当社は、創立以来培ってきた有機金属化合物の合成技術と経験にもとづいて「グリニャール反応」を活用。この反応技術では他社の追随を許しません。

SDGsとの関連



8働きがいも経済成長も(※8.2)

9産業と技術革新の基盤をつくろう(※9.5)

- ✓ 消費者の目には直接見えませんが、様々な分野で役立つファインケミカル製品を供給し、経済成長、技術革新を下支えします。

(参考)当社ファインケミカル製品の分野と主な用途

分野	主な用途
樹脂	硬化促進剤、合成触媒用原料 等
医・農薬	医農薬中間体・合成用原料 等
電子材料	液晶原料、フォトレジスト原料 等
その他	触媒、工業用防腐防カビ剤 等

- ✓ 医・農薬の分野にも製品を供給し、「2飢餓をゼロに(※2.1、2.3、2.4)」 「3すべての人に健康と福祉を(※3.d)」のSDGsにも取り組んでいます。

3-2.「研究開発」とSDGs

— 技術を開発し続ける～Challenge to Innovation—

研究
開発

□ ファインケミカル製品の研究開発

- 幅広い産業社会の技術革新、経済成長に貢献できる製品・技術の開発を目指して、日々研究を行っています。

□ 安全性、高品質、生産性の追求

- 安全性の追求はもちろんですが、当社の優位性は、グリニャール反応などの有機合成技術の活用により、収率良く品質の高い製品を造ることができる点にあります。
- さらに低コストで高品質の製品を造るべく、グリニャール反応などを用いた合成方法と精製方法の研究に取り組んでいます。
- めまぐるしく変化する時代、将来を見据えて、当社が世界に誇れる技術をもって、産業社会の技術革新、経済成長を下支えします。

□ 研究方法

- 研究開発は、当社独自で進めるものだけではありません。産官学の共同開発(パートナーシップ)にも取り組みます。
- 当社の「受託製品」は、単なる受託製造ではなく、研究開発の段階から、顧客のニーズにきめ細かく対応し、顧客と共同開発して製品を造り上げていきます。

SDGsとの関連



- 8働きがいも経済成長も(※8.2)
- 9産業と技術革新の基礎をつくろう(※9.5)
- 14海の豊かさを守ろう(※14.1)
- 15陸の豊かさも守ろう(※15.4、15.a)



医・農薬の分野の研究開発にも注力。
「2飢餓をゼロに(※2.1、2.3、2.4)」 「3すべての人に健康と福祉を(※3.d)」のSDGsにも関連しています。

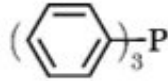


17パートナーシップで目標を達成しよう(※17.17)

3-3「自社製品」「受託製品」とSDGs

TPP

(Tri Phenyl Phosphine)

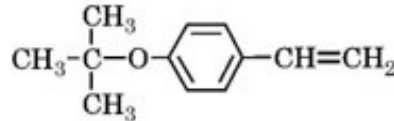


【特長】

- 有機リン化合物の一種であるTPPは、ビタミン合成や医農薬原料の合成、また触媒配位子、エポキシ樹脂硬化促進剤としても使用され、顧客からのニーズが高く利用シーンの多い化合物です。
- 特にリン系エポキシ樹脂硬化促進剤としては、硬化物の電氣的信頼性に優れることから、長年にわたって半導体封止材に使われ続けています。
- 世界需要は5000トン以上。ここ数年増加傾向で、当社がその約2分の1のシェアを持っています。

PTBST

(p-tert-Butoxystyrene)



【特長】

- フォトレジスト分野で広く使用されるスチレン系機能性モノマーで、この分野で使用されるエキシマレーザーの「KrF」にマッチする化合物です。
- 急速に進化し続ける半導体業界において、30年以上の長きにわたって、高いニーズを保ち続けています。
- 次世代レジストといわれる「ArF」が登場したことで、「KrF」が姿を消すことが危惧されましたが、IoTの時代の流れの中で、新たな技術として「KrF」が使用されることとなり、PTBSTは使用量を増やしています。

自社
製品

受託
製品

受託製品

- 「受託製品」とは、顧客である化学メーカーからのニーズにきめ細かく対応し、品質や価格などの面で要望に沿った製品を共に造り上げる、いわゆる「オーダーメイド製品」のことです。
- 当社では、長年の技術・ノウハウの蓄積をベースとして、顧客との緊密なリレーションのもと、広範な分野にわたり製造を受託しています。
- 中でもグリニャール反応技術は、世界でも有数の技術・規模により取引先からの幅広いニーズに応えています。



SDGsとの関連

- TPPは広範な分野で、またPTBSTは進化を続ける最先端の分野で使用され、世界の経済成長、技術革新を支えています。
- 当社は、広範な分野で“受託製品”を受注。単なる製造受託ではなく、顧客のニーズにきめ細かく対応し、顧客との共同開発で製品を造り上げていきます。
- TPPおよび受託製品は医農薬の分野でも使われ、「2 飢餓をゼロに(※2.1、2.3、2.4)」「3 すべての人に健康と福祉を(※3.d)」のSDGsにも関連しています。



8 働きがいも経済成長も(※8.2)
9 産業と技術革新の基礎をつくろう(※9.5)
17 パートナリーシップで目標を達成しよう(※17.17)



4.製品製造とSDGs



4.製品製造とSDGs

SDGsとの関連

□ レスポンシブル・ケア活動

- ・ 当社は、化学物質を取り扱う企業として、製品の開発から廃棄に至るまで「環境・安全・健康」を確保するため、化学物質、廃棄物の排出削減、適正管理に取り組んでいます。
- ・ また、その成果を「HOKKO レポート」で公表しています。



12 つくる責任つかう責任 (※12.4、12.5、12.6)

□ マネジメントシステムの認証取得

- ・ 当社の工場では、ISO9001（品質マネジメントシステム）、ISO14001（環境マネジメントシステム）、ISO45001（労働安全衛生マネジメントシステム）の認証を取得しています。
- ・ 特に、ISO14001およびISO45001を通して、環境保全と安全で健康な労働環境づくりに取り組んでいます。



6安全な水とトイレを世界中に (※6.3)
14海の豊かさを守ろう (※14.1)
15陸の豊かさも守ろう (※15.4、15.a)
8働きがいも経済成長も (※8.8)

□ 製造工程における排水、廃棄物の管理

- ・ 製造工程から発生した排水は、中和・活性汚泥・凝集沈降処理などにより、水質汚濁物質を取り除いてから、河川、海域に排出しています。
- ・ 排出にあたっては、法令などの規則に基づき適切に監視、測定を行い、水質汚濁の防止に取り組んでいます。
- ・ 廃棄物については、3R（発生抑制：Reduce、再使用：Reuse、再生利用：Recycle）の推進、適正処理に取り組んでいます。



6安全な水とトイレを世界中に (※6.3)
14海の豊かさを守ろう (※14.1)
15陸の豊かさも守ろう (15.4、15.a)

□ エネルギー管理

- ・ エネルギー管理体制を整え、設備、製造工程のさらなる見直し、LED照明をはじめとする省エネルギー設備の導入など、省エネルギー活動を推進しています。
- ・ エネルギーの使用、廃棄物の焼却により温室効果ガスであるCO₂が発生します。当社では、省エネルギーを推進することでCO₂の排出抑制に努めています。



7エネルギーをみんなにそしてクリーンに (※7.3)
13気候変動に具体的な対策を (※13.2)

5. 主要な事業を支える活動とSDGs



5. 主要な事業を支える活動とSDGs

1

地域社会との対話

私たちは、研究所や工場において、見学、体験教育の受け入れやボランティア活動を通じ、地域の方々と積極的なコミュニケーションを図っています。

【SDGsとの関連】

- 見学や学生の体験教育・研修の受け入れに際しては、工場では、製品の製造工程や安全衛生および環境保全の取り組みについて、研究所では、農薬の開発に必要な様々な効果試験や安全性試験についてなどを紹介しています。
- 各事業所においては、野球場などの施設の開放、事業所周辺の清掃活動や地域の廃品回収への協力、地域行事への参加など様々な活動を行っています。
- その他、工場では、毎年移動献血車が来場し、献血活動に協力しています。研究所では、万一災害が発生した場合、敷地内を避難所として提供する内容の覚書を地元自治会と結んでいます。



4 質の高い教育をみんなに(※4.3)



11 住み続けられるまちづくりを(※11.5、11.7)

2

コーポレート・ガバナンス

私たちは、持続的な成長および中長期的な企業価値の向上を図るためには、ステークホルダーとの協働や高いコンプライアンス意識の維持が重要であるとの認識に立ち、コーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでいます。

【SDGsとの関連】

- コンプライアンス基本方針、行動規範において、「多様性の尊重」を掲げ、国籍や性別、年齢、信条等にとらわれず、あらゆる人格、人権や個性を尊重し、職場におけるハラスメントなど不当な扱いの防止に努めています。
- 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策として、事業継続計画(BCP)を策定しています。



5 ジェンダー平等を実現しよう(※5.1、5.5、5.b)



13 気候変動に具体的な対策を(※13.1)

3

人材育成

私たちは、持続的な成長を果たしていくため、新たな分野にチャレンジする人材の育成や社員が活躍できる職場づくりを進めています。

【SDGsとの関連】

- 階層別研修、実務研修他各種教育制度を導入。また、資格取得(博士号、JGAP等)や通信研修受講を奨励・助成して、社員のスキルアップをサポートしています。
- 育児・介護休業はもとより、半日有給休暇、時間単位有給休暇や計画有給休暇などの諸制度を通じて、ワークライフバランスの実現を目指しています。
- 健康診断やストレスチェックを毎年実施し、必要に応じて産業医による健康相談や面接指導を行っています。また、外部の委託業者と連携し、健康・医療相談およびメンタルヘルスカウンセリングを受けられる相談窓口を設けるなど、サポート体制の充実を図っています。



- 3すべての人に健康と福祉を(※3.d)
- 4質の高い教育をみんなに(※4.4)
- 5ジェンダー平等を実現しよう(※5.1、5.5)
- 8働きがいも経済成長も(※8.8)
- 10人や国の不平等をなくそう(※10.2)